

No.

007

平成12年度

特別案件調査「技術協力のための日本語コース」
調査報告書

JICA LIBRARY



1188636 [3]

平成13年5月

国際協力事業団
沖縄国際センター

沖縄セ

JR

01-001

LIBRARY

はじめに

この報告書は国際協力事業団沖縄国際センターが実施した集団コース「技術協力のための日本語」の帰国研修員及びその所属機関関係者、技術協力実施機関から本コースに対する要望、意見を収集し、改善評価に応えるべく効果的効率的な研修コース策定のために、平成13年2月18日から2月28日までの11日間、東南アジアのラオス及びタイ2カ国に派遣した調査団の業務報告書です。

本報告書により、当該分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、帰国研修員が抱えている諸問題及び研修にかかる要望事項等について関係各位のさらに深いご理解を頂き、今後の研修コースの改善に資すれば幸いです。

なお、本件実施のためにご協力を賜った外務省、(財)日本国際協力センター並びに現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館及び関係機関の皆様に深甚なる謝意を表する次第です。

平成13年3月
国際協力事業団
沖縄国際センター
所長 佐々木 豊



1188636 [3]

目 次

はじめに

写真

1.調査団派遣の概要	1
1-1. 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2. 調査目的	1
1-3. 団員の構成	1
1-4. 訪問日程	3
1-5. 調査事項	5
1-6. 主要面談者	5
2.研修コースの沿革	9
3.調査の視点について	12
4.調査結果	13
4-1. ラオス	13
4-1-1. ラオスにおける帰国研修員の現状と調査概要	13
4-1-2. 調査対象機関の概要	13
4-1-3. 質問票集計結果の分析	16
4-1-4. 帰国研修員面談内容	16
4-1-5. 当該分野における現状と問題点	18
4-2. タイ	20
4-2-1. タイにおける帰国研修員の現状と調査概要	20
4-2-2. 調査対象機関の概要	20
4-2-3. 質問票集計結果の分析	22
4-2-4. 帰国研修員の面談内容	23
5.総括	29

付属資料

1. 帰国研修員名簿	31
2. 質問票（日本語・英語・ラオス語）	33
3. 質問票集計結果	47
4. アンケート分析結果	55
5. 現地報告書	56
6. 収集資料一覧	57



ラオス首相府投資協力委員会
(右中央) Dr.Bountheuang MOUNLASY
Director General, (局長)



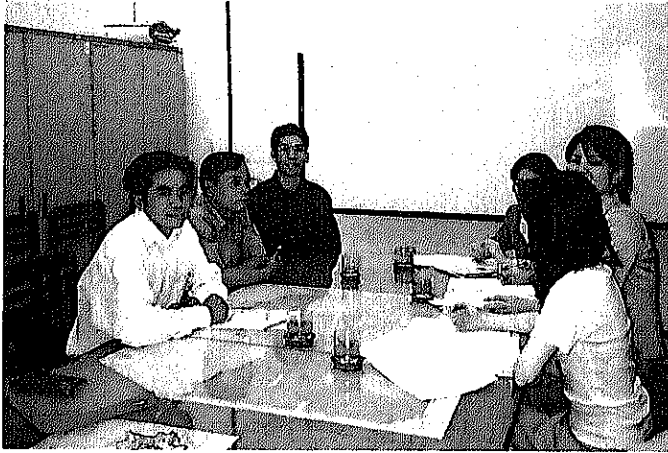
ラオス教育省
Mr. Bounthavy INSISIENMAY
Director of Cabinet (官房長)



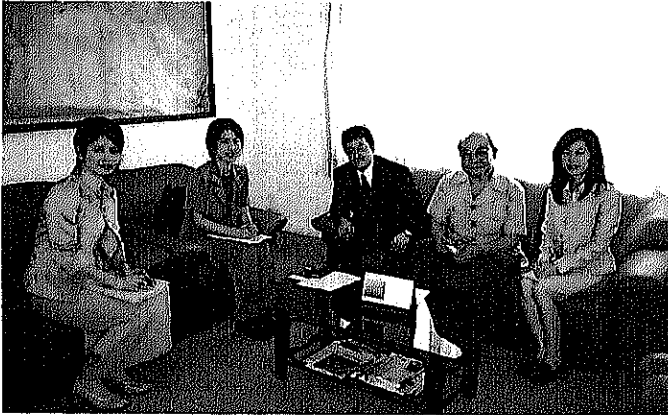
在ラオス日本国大使館
宮本 吉範 特命全権大使



在ラオス日本国大使館
(右端)長野 誠司 一等書記官



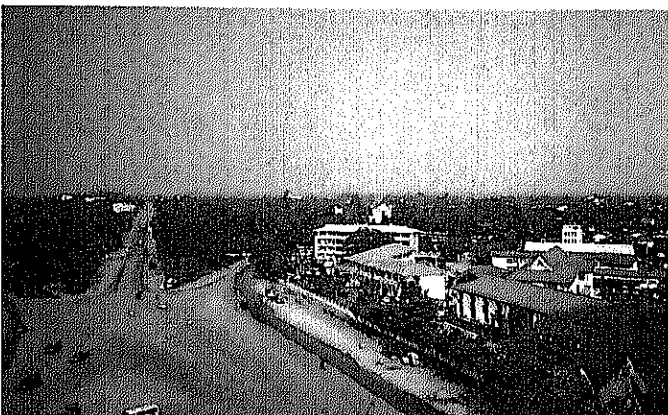
JICA ラオス事務所にて
帰国研修員インタビュー
(左から) Mr. Khamstone THONGMIXAY,
Mr. Khamsavay SYPHANDONE



ラオス外務省
アジア太平洋アフリカ局
(右から二人目) Mr. Souchay PHILATHIVONG
Deputy Director General (副局長)



ラオス帰国研修員職場
外務省アジア太平洋アフリカ局
(左端) Mr. Somchai PRAPHASIRI



ラオス官庁街



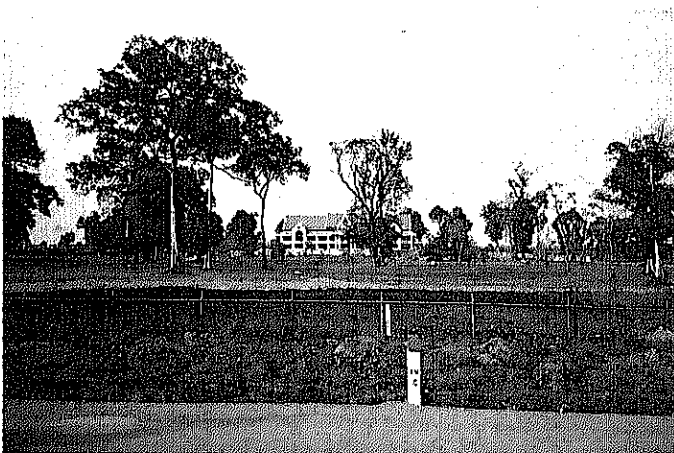
ラオス国立大学
Mr. Tuyen DONGVAN
Vice-Rector (副学長)



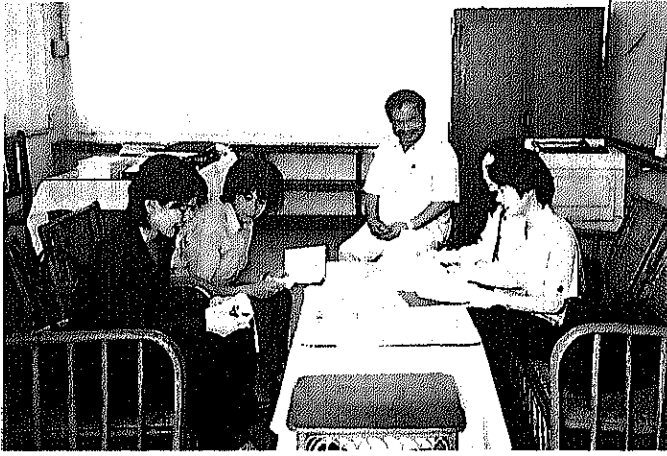
ラオス日本人材協力センター
建設現場視察
(右端) 阿部 憲子 所長



ラオス日本人材協力センターにて面談
(左2人目から) 森戸 規子 専門家、
森 調整員
(右端) 阿部 所長



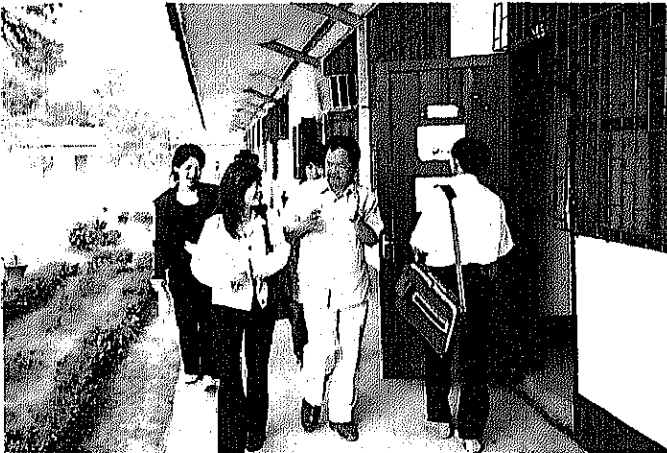
ラオス国立大学本館



ラオス国立大学基礎教養学科

(中央) Mr. Inpeng KHIEOVONGPHACHANH
Director (科長)

(左から2人目) 浅見 順子 シニア海外ボランティア



ラオス国立大学内

Mr. Inpeng KHIEOVONGPHACHANH
Director (科長)



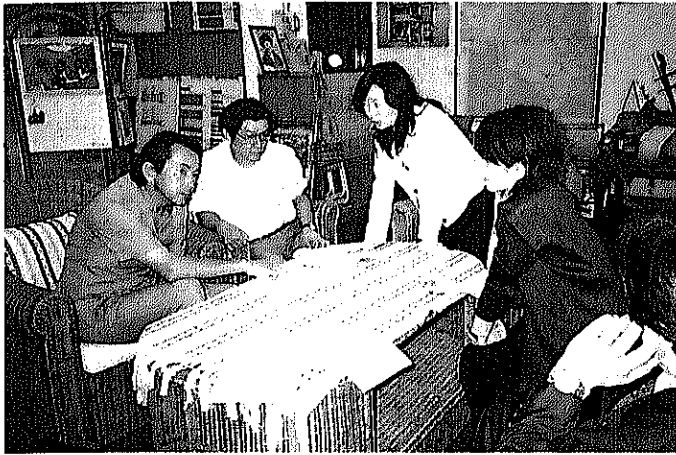
ラオス国立大学工学部

(右から3人目) Dr. Somkot MANGNOMEK
Director (学科長)



ラオス帰国研修員および関係者との懇談会

(後列左から) 浅見シニア海外ボランティア、森調整員、森戸専門家、教育省ブンダビー官房長、首相府投資協力委員会ブンドゥアン局長、琉球大学野崎助教授、外務省アジア太平洋アフリカ局スーチャイ副局長、ラオス国立大学工学部ソムコット学科長、JICAラオス事務所日高職員、ラオス国立大学基礎教養学科インペン科長、(前列左から2人目) カムソン、ソムチャイ、(右端) カムサヴァイ



JICA ラオス事務所／調査報告
(左から) 青木 眞 所長
宮田 伸昭 次長



ラオス／セタティラート病院
(左から2人目)野崎 宏幸 琉球大学助教授



セタティラート病院内
(右から3人目) ピンダヴォン 帰国研修員
(左端) 野崎 宏幸 琉球大学助教授



日本国際協力センター
ラオスプロジェクト事務所
(右端) 直塚 太郎 職員



JICAタイ事務所
(中央) 森本 勝 所長



在タイ日本国大使館
(左)筒井 祐治 二等書記官



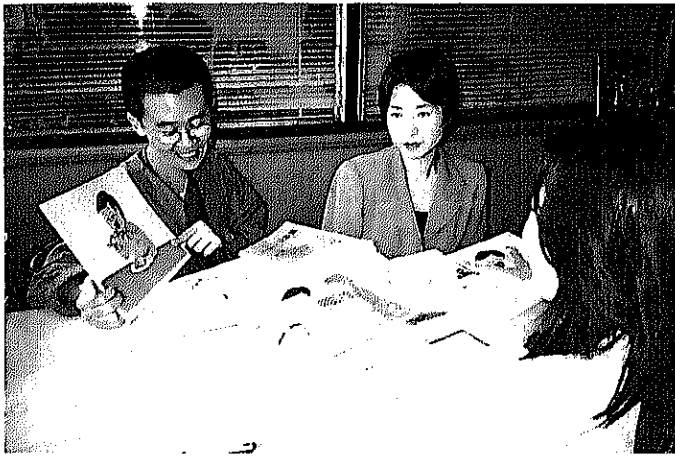
タイ総理府経済技術協力委員会
(中央) Ms. Supranee Liamcharoen
Chief Monitoring and Evaluation Sub-Division,
Planning Division (課長)



タイ保健省国際保健課
(左端) Ms. Nantika Sungoonshorn
Chief, International Cooperation Section,
International Health Division (課長)



タイ帰国研修員職場
教育省職業教育局
(右から2人目) Ms. Siripan Choomnoom
Director, Planning Division (課長)
(右端) Mr. Yothin Sommano (帰国研修員)



タイ帰国研修員インタビュー
Mr. Yothin Sommano (帰国研修員)



タイ内務省公共事業部
(前列右から2人目) Mr. Rajatin Syamananda
Deputy Director General (副部長)
(後列右から2人目) Mr. Thamnoon
Nantasomboon (帰国研修員)



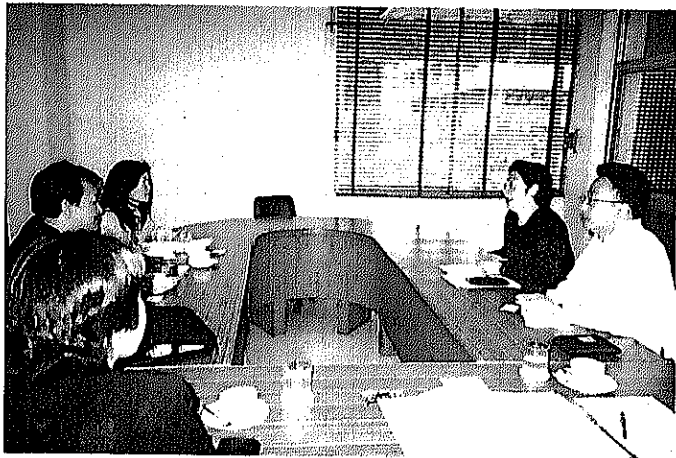
タイ帰国研修員インタビュー
商務省輸出部
(左から)
Ms. Pitinun Samanvorawong (帰国研修員)
Ms. Amornrat Tamrevadee (帰国研修員)



タイ帰国研修員職場
農業協同組合省畜産振興局
(左から)

Ms. Ciaewewan Leowijuk
Director, Foreign Livestock Affairs Division
(課長)

Ms. Panpilai Ayawan (帰国研修員)



タイ帰国研修員職場
工業省産業基準検査所
(右から2人目)

Ms. Prima Wangwongwiroj
Director (課長)

(右端) Mr. Samithi Jumratsri (帰国研修員)



タイ工業省
(中央) Mr. Manu Leopairoj
Permanent Secretary, (事務次官)
(左から3人目) Mr. Witoon Simachokedee
Assistant Permanent Secretary
(副事務次官)

(右端) Mr. Samithi Jumratsri (帰国研修員)



タイ帰国研修員インタビュー

(左から2人目) Ms. Panpilai Ayawan

(右から2人目) Ms. Arunee Lertrasmewong

1. 調査団派遣の概要

1-1. 調査団派遣の経緯と目的：

本特別案件等調査団は、沖縄国際センターで実施している「技術協力のための日本語」コースを調査対象とする。

当該コースは、JICAが実施する技術協力事業の関係機関の担当者に対して日本語研修を行ない、円滑でより効果的な事業実施に寄与することを目的としている。

平成12年度で16回目の実施を迎え、近年ではそのニーズも多様化している。当該分野の前回の調査団派遣から7年が経過しており、対象国における現在のニーズを把握し、研修プログラムの改善が必要である。

こうしたことから、帰国研修員のフォローアップ・関連機関への訪問を通じて研修効果測定、ニーズ調査を行ない、今後の研修へフィードバックすることが急務とされる。

については、本年度調査団を派遣し、今後のコース形成の準備に係る調査する。

1-2. 調査目的

- (1) 評価： ア. 帰国研修員の研修効果の調査
 イ. 帰国後の日本語活用状況
- (2) 現地調査： ア. 所属機関での言語場面の調査
 イ. 帰国後の継続学習状況
 ウ. 現地の日本語教育事情に関する調査
- (3) ニーズ調査： ア. 研修カリキュラムの改善事項
 イ. 当該分野における今後の展望
- (4) アフターケア：ア. 帰国研修員および所属機関での技術的問題への助言
 イ. 帰国後の継続学習に対するサポート

1-3. 団員の構成：

- (1) 熊谷 信広 (団長)
 国際協力事業団沖縄国際センター業務課 課長代理
 Mr. Nobuhiro KUMAGAI (Team Leader)
 Deputy Director, Programme Division, Okinawa International Centre,
 Japan International Cooperation Agency

(2) 島袋 きよみ (研修効果測定)

財団法人日本国際協力センター 日本語指導員
Ms. Kiyomi SHIMABUKURO (Impact Survey)
Instructor, Japanese language,
Japan International Cooperation Center

(3) 城間 郁代 (技術指導)

財団法人日本国際協力センター 日本語指導員
Ms. Ikuyo SHIROMA (Technical Instructor)
Instructor, Japanese Language,
Japan International Cooperation Center

(4) 照屋 江美 (研修計画)

国際協力事業団沖縄国際センター総務課 職員
Ms. Emi TERUYA (Planning of Training Course)
Staff, General Affairs Division, Okinawa International Centre,
Japan International Cooperation Agency

1-4. 訪問日程：

	日 時	訪問先／内容
1.	2月18日（日）	08:20 那覇発 15:50 福岡発、バンコクへ バンコク着
2.	2月19日（月）	08:30 バンコク発 09:30 ヴィエンチャン着 11:00 JICAラオス事務所との打ち合わせ 13:30 首相府投資協力委員会（CIC）表敬 15:30 教育省表敬 財団法人日本国際協力センターラオス事務所訪問 16:30 日本大使館表敬
3.	2月20日（火）	08:30 帰国研修員インタビュー （JICA事務所） 09:30 外務省アジア太平洋局表敬 14:00 ラオス国立大学表敬 15:00 ラオス国立大学経済経営学科、ラオス日本人材協 力センター訪問 19:00 ラオス帰国研修員との意見交換会
4.	2月21日（水）	09:00 シニア海外ボランティアとの会議 09:45 ラオス国立大学基礎学科表敬 10:30 ラオス国立大学工学部表敬 13:30 セタティラート病院表敬 17:00 JICAラオス事務所報告

	日 時	訪問先／内容
5.	2月22日 (木)	10:30 ヴィエンチャン発
		11:40 バンコク着
		15:00 JICAタイ事務所との打合せ
		16:00 日本大使館表敬
	18:30 タイ帰国研修員との意見交換会	
6.	2月23日 (金)	09:30 総理府経済技術協力委員会 (DTEC) 表敬
		11:00 教育省職業教育局表敬
		14:00 内務省表敬
7.	2月24日 (土)	資料整理／調査打ち合わせ
8.	2月25日 (日)	資料整理／調査打ち合わせ
9.	2月26日 (月)	09:00 保健省国際保健課訪問
		11:00 商務省輸出部訪問
		14:00 農業・協同組合省畜産振興局訪問
10.	2月27日 (火)	09:30 工業省産業基準検査所訪問
		10:30 工業省事務次官室訪問
		14:00 運輸・郵政省郵政部訪問
		16:30 JICAタイ事務所にて報告
11	2月28日 (水)	09:10 バンコク発 21:20 関西空港発、那覇へ 那覇着

1-5. 調査事項

今回の調査団は、帰国研修員に対する研修効果や日本語の活用状況、問題点等を把握するとともに、アフターケアとしてITを活用した継続学習サポートを検討しているため、その有用性を検証することも重要課題の一つとしている。

また、社会開発協力部のプロジェクトとして建設中のラオス日本人材協力センターにおいて、日本語の研修を実施する予定とのことから、当センターの日本語コースとの連携の可能性を調査し、他のスキームも有効活用した効率的な研修コース運営を検討する。

調査対象	項目	調査内容	調査方法
援助窓口機関	候補者の選考方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ GIの配布先 ・ 候補者の選考基準 ・ 研修コースへの要望等 	面接
帰国研修員所属機関	研修員所属先の現状 研修効果およびニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修員の帰国後の業務および職位 ・ 職場での日本語の活用度 ・ 日本での研修の評価 ・ 継続学習状況および諸問題 ・ ITを活用したアフターケアの有用性 	面接 アンケート調査
日本語教育機関	日本語教育事情に関する情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオス日本人材協力センターにて開設予定の日本語研修コースとの連携の可能性 	現場視察 面接

1-6. 主要面談者

(1) ラオス

首相府投資協力委員会 Committee for Investment and Cooperation

Dr. Bountheuang MOUNLASY

Director General, International Cooperation Office

Ms. Saymonkham

教育省 Ministry of Education

Mr. Bounthavy INSISIENMAY

Director of Cabinet

木内 行雄 JICA専門家

Mr. Yukio KIUCHI
JICA Expert
Adviser to Teacher Training Department

在ラオス日本国大使館 Embassy of Japan
宮本 吉範 特命全権大使
Ambassador, Yosinori MIYAMOTO
長野 誠司 一等書記官
Mr. Seiji NAGANO
First Secretary

外務省アジア・大平洋局 Department of Asia Pacific, Ministry of Foreign Affairs
Mr. Souchay PHILATHIVONG
Deputy Director General

ラオス国立大学 National University of Laos
Mr. Tuyen DONGVAN
Deputy Director
基礎学科 School of Foundation Studies
Mr. Inpeng KHIEOVONGPHACHANH (Director)
浅見 順子 JICAシニア海外ボランティア
Ms. Yoriko ASAMI
JICA Senior Volunteer

ラオス日本人材協力センター Lao-Japan Center
阿部 憲子 プロジェクトリーダー
Ms. Noriko ABE
Team Leader
Project of Lao-Japan Center
The National University of Laos

セタティラート病院 Sethathirath Hospital
Dr. Bouaphanh PHANTHAVADY
Director
野崎 宏幸 JICA専門家(琉球大学助教授)
Dr. Hiroyuki NOZAKI

JICA Expert
Lao-Japan, Sethathirath Hospital Improvement Project

財団法人日本国際協力センター Japan International Cooperation Center
直塚 太郎 国際交流部留学生課職員
Mr. Taro NAOTSUKA
Country Officer
International Students Affairs, International Exchanges Department

(2) タイ

総理府経済技術協力委員会 Department of Technical and Economic Cooperation
Ms. Supraanee Liamcharoen
Chief, Monitoring & Evaluation Sub-division, Planning Division
Ms. Pensri Chaichalermwong
Chief, Training Analysis Sub-division, Fellowship Division

在タイ日本国大使館 Embassy of Japan
筒井 祐治 二等書記官
Mr. Yuji TSUTSUI
Second Secretary

教育省職業教育局 Department of Vocational Education, Ministry of Education
Ms. Siripan Choomnoom
Director of Planning Division
Mr. Yothin Sommano (帰国研修員)
安原 弥生 青年海外協力隊員

内務省 Ministry of Interior
Mr. Rajatin Syamananda
Deputy Director General, Public Works Department
Mr. Supol Sripan
Director of Sanitary Division
Mr. Thamnoon Nantasomboon (帰国研修員)
Civil Engineer, Sanitary Division

保健省国際保健課 International Health Division, Ministry of Public Health

Ms. Nantika Sangoonshorn
Chief, International Cooperation Section

商務省輸出部 Department of Export Promotion, Ministry of Commerce
Ms. Bunjongjitt Aungsusign
Director of Thailand Export Mart
Ms. Pitinun Samanvorawong (帰国研修員)

農業・共同組合省畜産振興局 Department of Livestock Development, Ministry of Agriculture and
Cooperatives
Ms. Chaweewan Leowijuk
Director, Foreign Livestock Affairs Division
Ms. Panpilai Ayawan (帰国研修員)

工業省 Ministry of Industry
Mr. Manu Leopairoj
Permanent Secretary (事務次官)
Mr. Witoon Simachokedee
Assistant Permanent Secretary

事務次官室 Office of Permanent Secretary
Mr. Saneh Niyomthai
Director of Personnel Division
Mr. Kijia Chongkwanyuen

産業基準検査所 Thai Industrial Standards Institute, Ministry of Industry
Ms. Prima Wangwongwiroj
Director, Office of the National Accreditation Council
Mr. Samithi Jauratsri (帰国研修員)

運輸・郵政省国際業務課 International Service Division, Ministry of Transport and
Communications
Ms. Wajam Chuentongkam
Director of International Service Division
Ms. Juaner Bhengsathien
Director of Technical and Planning Division

2. 研修コースの沿革

技術協力のための日本語コースは、沖縄国際センターが開所した昭和60年以来平成12年まで16回の実施を数えており、これまでに3回の変遷を辿ってきた。

(1) 第1期：日本語専修コース（A）／（B）コース （昭和60年度～平成7年度）

国際協力事業団が実施する技術協力プロジェクトおよび専門家派遣事業を円滑に進めるため、相手国政府に日本語と日本人を熟知した人材を養成することを目的に設置されたコースである。当時、技術研修コースとして日本語のみの研修を行う唯一の集団コースであった。

研修は、1日5時間、週25時間の集中講習であり、年間日本語専修（A）コースと同（B）コースの2コースが設けられた。研修時間数は（A）コースが600時間、（B）コースは800時間とし、受け入れ対象レベルはともに初級を中心としていた。

この時期の前半は、アセアン諸国の研修員が多く、全体の過半数を占めていたが、年月を経るにつれ、受け入れる国も多様化してきた。

当初、（A）、（B）のコースは異なる時期に開講していたが、今期の後半からは両コースを同時期にスタートさせ、2コースを混成して、学習歴や習熟度に応じて3クラスに分け、それぞれのレベルに合わせた研修を実施した。また、平成7年度からチューター制度を導入し、研修員1名に対して1名の学生ボランティアに日本語学習のサポートを依頼するようになった。

(2) 第2期（現行体制への移行期）：技術協力のための日本語コース （平成8年度） 技術協力のための日本語（中上級）コース

これまでの「日本語専修コース」から「技術協力のための日本語コース」に名称を改め、日本語で書かれた技術文献読解力の強化や日本からの専門家とのコミュニケーション能力の拡大等、より技術協力の分野に重点を置くという特性のある研修コースの実施を目指した。

また、平成7年度に派遣したフォローアップチームの調査により、本コースの既習者を受け入れる再研修制度の必要性を確認したことから、平成8年度より、年2回のコースの内、1コースを中上級コースとして、再研修を含めた既習者を対象に、5月から8月の3ヵ月間の研修を実施した。また、残りの1コースは学習者のレベルをオープンとし、10月から翌年3月までの6ヵ月間の研修とした。

日本語研修開講前には、プレイスメント・テストを行い、クラスを3つに分け、初級を空組、中級を海組、上級をさんご組とし、それぞれのレベルに適したコース

運営を実施した。

(3) 第3期（現行体制）：技術協力のための日本語コース
技術協力のための日本語（中上級）コース
（平成9年度～平成12年度）

平成8年度に導入した既習者を受け入れる技術協力のための日本語（中上級）コースが3ヵ月と短期間であったことから、より研修内容の充実を図るため、技術協力のための日本語コースと同じく6ヵ月間の研修と改めた。研修時期も両コースともに10月から翌年3月の同時開閉講となった。

開講後、両コースの研修員をレベル別に3クラスに分け、さらに初級の空組では、使用教材「技術研修のための日本語」（分冊1）の終了時に、成績上位者を集めた初級の上クラスである風組を編成し、合計4クラスに再編成して、よりきめの細かい指導に努めている。

3. 調査の視点について

今回の調査は、主に、JICA沖縄国際センターの技術協力のための日本語コース（以下本コース）で学習した日本語がどのように活用されているのか、また、どのようにすればより効果的な研修が出来るかという視点で実施した。

今回訪問したラオス、タイの2カ国に関して言えば、帰国研修員は帰国後も日本語の学習を地道に続けており、技術協力の現場で日本人専門家、調査団、日本大使館、JICA職員との打ち合わせなどのほか現地語を日本人に教えたり、現地の学生に日本語を教えたりして様々な形でコースの成果を発揮していると言える。その貢献度のレベル、日本語能力については各人の能力のバラツキ、努力の違いで一概には言えないところもあるが、JICAの研修員の強みは帰国した研修員がその分野で実際に技術協力に従事しているということである。よって今回の調査では帰国後に技術協力に関係ある部署に所属しているか、具体的な案件に携わっているか、日本語を業務で使用しているか、その内容はどんなものか、国際交流基金の日本語能力試験を受検しているか等の視点も組み込んで行なった。

4. 調査結果

4-1. ラオス

4-1-1. ラオスにおける帰国研修員の現状と調査概要

ラオスからの研修員は平成11年度までに10名が参加している。今回調査対象とした平成5年度から参加の研修員9名のうち、今回の調査で1名は平成12年度の本コースで再研修中で、また1名は不慮の事故で亡くなっていた。したがって差し引き7名が調査対象となる。しかしながら、調査時点でラオス国内にいたのは計3名のみで、残り4名は2名が在外ラオス大使館で勤務中（韓国、日本）で、外国で研修中の人2名（日本、オーストラリア）であった。したがって、ビエンチャンでの聞き取り調査は3名に対して行い、アンケート調査はその3名と国外にいる4名に依頼し全員から回答を得た。

各関係機関では、本コースの概要説明とラオス各方面での日本語研修へのニーズなどについて聞き取り調査を行った。また、平成13年度に開所予定のラオス日本人材協力センターと本コースとの連携案についての趣旨説明も合わせて行い各機関の理解を得た。その他に技術協力の現場視察と言うことでラオス日本人材協力センター、ラオス国立大学工業学科、セタティラート病院を訪問した。

4-1-2. 調査対象機関の概要

選考方法に関する確認及び意見交換

ラオスでは首相府の対外経済協力局(以下CIC)が援助の窓口機関である。日本語コースの研修については、CICがJICAから送付されたジェネラルインフォメーションを教育省、ラオス国立大学、外務省、首相府にそれぞれ配布している。その各機関から推薦されたものをCICで調整し、JICA事務所へ推薦するという流れとなっている。選考基準としては、技術協力プロジェクトの関係者、日本の援助の窓口業務を行っているものが優先されているということであった。

日本の援助により2001年3月に完成予定の「ラオス日本人材協力センター」(以下日本センター)が竣工予定しており、そこで実施される技術協力の一つに日本語講座がある。今回、本調査団はその日本語講座の参加者から優先的に本コースで研修員として受け入れる用意があることを関係者に伝えた。いままでコースに送り出していた各関係機関からも特段異議はなく、各関係機関から本コースに参加したい場合は、まず日本センターで日本語講座を受講するよう提案し、関係者から了解を得た。

教育省

平成12年度に初めての留学生支援無償事業の留学生20名を送り出したばかりのラオスはこの制度で改善が望まれるいくつかの点の中に、学生の日本語力の充実があげられていた。日本への派遣前研修で英語と日本語の両方をわずか数ヵ月間で勉強しなければならないラオスの外国語教育の現状を鑑みると、この点は現行のカリキュラムではなかなか解決が難しいと思われるが、平成13年度に開講される日本センターでの日本語クラスや、本コースでの受講などを組み入れる等、JICAの色々なスキームを有機的に活用することも解決のひとつとなるかもしれないということを示唆した。

外務省

ラオスからの本コースへの参加は、ほとんどが外務省の職員でしめられていることが他の国と大きく違う点である。外務省アジア・太平洋局の職員が在日ラオス大使館へ派遣される前に本コースで日本語を学ぶというパターンで、過去6名が受講している。今後もこのパターンは踏襲されるものと思われるが、外務省側からは本コースの研修期間が語学の研修としては短いとの意見が出された。そこで、本コースの時間的制約を補う意味で本コースへ参加する前に日本センターで日本語のクラスを受講することを提案した。

ラオス国立大学

アジア開発銀行の高等専門教育合理化計画に基づき1996年ラオス国立大学が設立された。その後ラオス政府からの要請に基づき同大学においては2000年の9月から5年の計画で国際協力事業団社会開発協力部のプロジェクトとして日本センターおよび経済経営学部支援プロジェクトが始まっている。

ラオス国立大学では1996年から日本の文部省の留学生試験の準備として日本語教育を基礎教養学科で始めている。昨年度は20名を送り出し、今年も20名が試験に合格しているという。その他同大学の経済経営学部教師のためにも日本語クラスを開設しているという。このラオス国立大学の日本語教育を担当しているのが本コースに再研修で来たワントン・ニョイサイカム氏である。その後1999年3月から6月に日本語教育のJICA短期専門家、そして1999年11月からは2年の予定でシニア海外ボランティア1名がラオス大学の日本語教育を支援している。ここの最大の問題は日本語を教えられる専門のラオス人教員がいないことである。ワントン氏はシニア海外ボランティアのカウンターパートであるが、彼の本来の専門は数学であり、その他学部内の色々な教務の仕事を担当しているため、1名ではすべてのクラスを教えるのには無理がある。今後は日本語教育を担う人材を育成していくことが1番の課題である。そのため本コースへの希望としてはコー

スの受け入れ人数を増やして欲しいというものであった。今後、留学生支援無償事業、本コースのカウンターパート枠、日本センターの日本語講座等を有機的に連携させ活用することが考えられる。

ラオス日本人材協力センター

平成13年度5月に開所を目指し、日本センターは調査当時ラオス国立大学敷地内に建物を建設中であり、また隣接地には経済・経営学部の校舎も建設中であった。また、日本語教育の長期専門家1名が中心となって各種日本語講座のカリキュラムを整備しつつあった。

日本センターにおける日本語講座は以下の3種類に分けられる。

- ①ラオスの一般の人々への日本語教育の普及および日本語教育を通じての日本理解の促進を目指した「一般コース」
- ②ラオス国立大学における日本語教育の発展と日本語教育を通じての日本理解の促進を目指した「学内コース」
- ③ラオスのビジネスの発展に貢献しうる日本語教育の基礎づくりを目指した「職種別コース」

その他要請があれば基礎教養学科の日本留学前語学訓練コースとして1名50時間を限度に個別に対応する予定である。

①のコースにおいては広く一般の人を対象に夜間と土曜日に講座を開く予定である。②のコースでは将来ラオス大学における日本語および日本研究の担い手を養成するのが目的である。時間は平日の午後を予定している。今後このコースではラオス大学の単位が取得でき、また第2外国語に組み入れられるよう、関係機関への働きかけが待たれる。

③のコースではラオスにおける「観光業」に焦点を絞りホテル用講座、ガイド用講座、通訳用講座の3クラスを順次開設する予定である。設定は平日の午後である。プロジェクトの目標からみても将来的にはこのコースが日本センターの中心的コースになることが期待されている。

目下のところ日本センターの懸念は、ラオス大学は市内の外れにあり公共の交通機関が少ないヴィエンチャンで各コースに学習者が十分集まるかということである。また、基礎教養学科における日本留学準備コースを日本センターの日本語講座と一元化するという構想も出ているようで、その点での調整も必要とされている。

4-1-3. 質問票集計結果の分析

ラオス：アンケート対象者 ラオス国内3名、国外4名 計7名、回収率100%

(ア) 帰国後の日本語学習状況

7名全員が日本語を継続して学習していると答えているが、1名をのぞき自習の形であった。ラオス国内にはこれまで一般の人が日本語を学習できる公立や民間の日本語学校がほとんどなかったことに起因すると思われる。

(イ) 日本語使用場面

特に多かったのが日本人訪問団や調査団、VIPなどの訪問の応接であった。次に多かったのが日本人専門家との打ち合わせや色々な手伝い、電話のやりとりであった。

(ウ) 職場でのインターネット使用状況

現在使用している職場は教育省の1カ所だけであった。その他の職場は今後整備していく予定があるということであった。

(エ) 日本語コースのE-mail同窓会やホームページへの要望

全員が日本語の敬語や挨拶などの表現についての質問を希望していた。また文法や日本語の単語についての質問もその次に多い要望であった。その他日本語で書いた文章の添削を望む者も多かった。

4-1-4. 帰国研修員面談内容

① Mr. Khamsone Thongmixay (カムソン)

教育省 (平成6年度)

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後は不定期に日本語を学習している。

(イ) 職場での日本語使用状況

① JICAのラオス事務所で新しく赴任してきた青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの人たちへのラオ語のクラスをアレンジ。また彼自身も教えている。

②日本からの留学生（東京大学、京都大学）の受入担当をしている。

以上のような業務で日本語を使用するほか、ラオスの学生に次のような日本文化紹介の仕事もしている。

③ラオスの中学と高校用に日本文学紹介用の教材を作成した。

④ラオス国立大学ラオ語学科で日本文学を教えている。

（ウ）現在の問題点や日本語コースへの要望

彼の日本語使用の場面は多いがいかんせん初級修了レベルでは漢字力や語彙力、文法力に限界がある。その辺のレベルアップを強く望んでいた。また、職場でラオス語、タイ語、英語が打てるコンピュータがあり、インターネットにアクセスもしているということであった。今後日本語学習に置いて全般的な情報が得られることを要望していた。

② Mr. Khamsavay Syphndone（カムサヴァイ）

保健省（平成8年度）

（ア）帰国後の日本語学習状況

1週間に1時間ぐらい沖縄国際センターで使用した「技術研修のための日本語」分冊1～3までを使って自習している。また、研修が終わって帰国した年の1997年12月には国際交流基金の日本語能力試験4級^{（注）}を受験し合格したという。

（注）日本語能力試験4級：簡単な会話ができ、平易な文の読み書きができる。初級前半修了程度。

（イ）職場での日本語使用状況

彼の事務所には保健医療協力計画プロジェクトの日本人専門家が1名いる。日本語が分かるのは彼だけなので、必要に応じその専門家のアシスタント的役割を担っていて日々の打ち合わせなどで日本語が使われる。また、事務所に届いた日本語の礼状や招待状の翻訳をすることもある。その他日本語で書かれた医療器械の説明書などを読まないといけないこともある。その他日本人調査団やVIPの訪問があったときなども彼が日本語で応接をするようである。

（ウ）現在の問題点や日本語コースへの要望

現在職場にインターネットに繋がったラオ語と英語が打てるコンピュータがある。彼も今後それを使用する計画がある。もし、インターネットで沖縄国際センターの日本語室と繋がれば、日本語の文法や言葉、敬語などの表現について是非質問していきたいと希望し

ている。

③ Mr. Somchai Praphasiri (ソムチャイ)
外務省 (平成7年度)

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後は週に1時間程度は日本語を自習していた。また、日本人と会い機会を利用して会話力の維持に努めていた。その後、後述のとおり日本に派遣される。

(イ) 職場での日本語使用状況

平成9年度から平成12年12月まで、3年4ヵ月に渡り東京のラオス大使館に勤務する。その間日本人向けビザ発給の手続き、電話による各種問い合わせや、在日のラオス人就労ビザの問題解決など色々な窓口業務で日本語を使用したという。

(ウ) 現在の問題点や日本語コースへの要望

日本滞在期間中日本語の会話力は業務で毎日話していたので、上達したが、日本語の文章の読み書きには困難を感じる。つまりは漢字の読み書き能力の向上がこれからの課題であり、その面でのアドバイス等を要望していた。職場でのインターネットは現在準備中ということであった。開通した暁には日本語教材の情報や日本語表現や文化、習慣についての情報を期待するということであった。

4-1-5. 当該分野における現状と問題点

帰国後における日本語学習及び使用状況

面談した3名の帰国研修員とアンケート調査をした4名の研修員ともに全員が帰国後何らかの形で日本語を継続して学習しているようだが、日本語教育機関がほとんどないラオスの現状では自主学習の形態しかとらざるを得ず、帰国後も系統的に日本語の力、具体的には文法事項や語彙力そして漢字力を積み上げていくのは困難な状況にあるようであった。しかしながら、職場に於いてはそれぞれに日本語を業務に役立てている。外務省の研修員は日本担当の外交官としてラオス国内での業務に従事しつつ、在日本のラオス大使館にも派遣されたりしている。ラオス国立大学では基礎教養学科での日本語講習を担当しているし、保健省と教育省の帰国研修員もJICAの専門家やボランティアの方々のお世話やラオス語指導などで日本語を生かした業務に携わっている。

それだけに、日本語学習のフォローアップは必要であり、将来インターネットが整備されれば、沖縄国際センターから日本語コースのホームページ上で色々な情報が提供できるであろうし、継続学習の支援も行えるものと期待できる。

また、継続学習の手段として、所属機関での調整ができれば、本コースでの再研修も可能であるし、ラオス日本人材協力センターでも近々一般コースで日本語クラスが開設される予定であることなどから、ラオスに於いても今後帰国研修員の継続学習支援体制は整っていくものと思われる。

ラオス日本人材協力センターとの連携

JICAが実施する技術協力のスキームを連携させ有効に活用していくのを促進する意味でも今回ラオス側に提案した本コースへの応募者を日本センターの日本語クラス受講者から選抜するという案は、大変画期的なものといえる。それにより、日本センターの受講者にインセンティブを持たせることができると考えられるし、無償留学生や長期留学生制度とのリンクも合わせて行えれば、留学前の予備教育をより充実したものにすることができる。

本件に関してラオス外務省を始め教育省、対外投資協力委員会、ラオス国立大学などの関係機関に於いて概ねの合意を得ることができた。また、JICA側としても国内事業部において毎年当該コースの割り当て国にラオスを優先的に採択してもらう旨確認をした。

4-2. タイ

4-2-1. タイにおける帰国研修員の現状と調査概要

タイからの研修員は本コース開設以来25名であるが、今回調査対象となったのは平成7年度以降に本コースにおいて研修した7名と、かなり以前ではあるが当該帰国研修員と現在同じ職場に在籍しているということで昭和60年度に研修を受けた1名の合計8名である。その内実際に面談できたのが7名、アンケートの提出のみが1名であった。また、帰国研修員の職場での聞き取り調査については6機関において調査し、さらに平成12年度本コースにおいて現在研修中の3名の職場も訪問した。

4-2-2. 調査対象機関の概要

タイにおける研修員の派遣機関は毎年多岐に渡っており、今回の調査では総理府経済技術協力委員会（以下DTEC）、教育省職業教育局、内務省公共事業部、商務省輸出部、農業協同組合省畜産振興局、工業省産業基準検査所、及び現在研修中の研修員の職場である工業省事務次官室、保健省事務次官室、運輸・郵政省郵政部国際業務課を訪問した。

(ア) 選考方法に関する確認及び意見交換

タイの本コースへの研修員派遣はDTECが援助の窓口になっている。今回は特に研修員選考の際の審査方法や基準について質問した。以下が調査の内容である。

- ①ジェネラルインフォメーションは特に日本との技術協力が必要な省庁に配布している。
- ②申し込み書は各セクション2名まで受け付ける。
- ③実力テストの実施。

初級の場合は英語、中上級の希望者に対しては英語と基礎日本語のテストを課し、日本語に関してはDTECに派遣されているJICA専門家に採点を依頼しているということであった。また、さまざまな奨学金制度や留学生派遣のために、別のセクションで毎週金曜日に英語の実力テストを実施し、一定の英語レベルに達しないと研修参加資格は得られないということであった。日本語や英語の能力に関しては、ジェネラルインフォメーションの資格要件に忠実に従い厳選な選考を行っていた。

一方DTEC側からも本日本語コースの2つのコースの違いについて質問があり、中上級コースが帰国研修員への再研修のために開設されている旨を説明するとともに、過去本コースで学んだ研修員を優先的に受け入れる準備があることを伝えた。また、JICA専門家の任期満了後の日本語テストへの対応については、十分な英語力がある場合は本コース側

で受け入れが可能である旨を説明し柔軟な対応を勧めた。

例年タイからの研修員は、英語力及びモチベーションの高さで日本語の習得が比較的優れていたが、DTECのこのようなしつかりとした厳しい選考方法の賜であったことが確認できた。

(イ) 日本語が話せる人材の必要性について

ほとんどの機関では日本語の話せる人材は帰国研修員1名かあるいはいてもごく少数である。それゆえ、帰国研修員に対する職場の期待度は非常に高く、カウンターパートとして、日本人専門家や協力隊、シニア海外ボランティア等とともに、プロジェクトを遂行していく上で、日本側とタイ側の潤滑油的存在になるとされている。さらに、今後も日本との技術協力が増えていくであろうし、プロジェクトの分野も多岐に渡っていくことを鑑みると、日本語の話せる人材はどの機関においても大変必要であるという回答を得た。当然のことながら専門分野の日本語をはじめ日本語能力は高ければ高いほど望ましいが、日本人専門家やボランティアとの日常的なコミュニケーションができることがもっとも重要であるということであり、帰国研修員への期待とともに、日本語研修に対するニーズの高さが確認できた。

(ウ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

コンピュータの日本語のシステムが完備されている機関は現在のところ商務省輸出部の1機関だけであった。しかし、帰国研修員の日本語力の保持と継続学習のバックアップにつながるであろう本コースのホームページ開設計画に関してはどの機関も非常に関心が高く、早急に対応してほしいという声とそのために帰国研修員が職場のコンピュータを使用することに一様の理解を得られた。

(エ) 工業省事務次官室、保健省事務次官室、運輸・郵政省郵政部国際業務課における調査結果

どの機関も共通して現在進行中のプロジェクトが多く、JICA専門家も多いことから日本語の話せる人材の必要性を強調していた。それゆえ現在研修中の3名についても詳しく研修の様子を尋ねられ帰国後の活躍にかなりの期待が寄せられていた。運輸・郵政省郵政部国際業務課からはJICAは各国に専門家を派遣する際、現地カウンターパートのために日本語の専門家も同時に派遣してほしいという要望もあった。その他、産業省事務次官室からは語学習得にはできるだけ長い研修期間が必要だと思われるが、タイの公務員の勤務条件を鑑みた場合、5ヵ月以上の研修は本来は厳しいものがあるということで、本コ

ースにおいても研修期間に幅を持たせたコース設定がされれば、日本語に興味を持っている人に学習の機会がさらに広がると思われるとの意見も出された。

4-2-3. 質問票集計結果の分析

タイ：アンケート対象者 8名、回答者8名 回収率100%

(ア) 帰国後の日本語学習状況

全研修員が帰国後も独自の学習スタイルや国際協力基金のバンコク日本語センターなどにおいて継続して日本語を学習していた。また、8名のうち帰国後国際交流基金の日本語能力試験を受験した人が4名、そのうち、帰国後の継続学習で4級に合格した人が2名、3級を受験した人が2名、その他今年度2級に挑戦した人もいた。中には、教育省管轄の日本語学校で実際に初級日本語を教えている人や大学で日本語観光ガイド免許取得のための勉強をしている人もいた。

(イ) 帰国研修員の日本語の使用状況について

所属機関やプロジェクトの有無によっても多少異なるが、帰国後数年経ってJICAのプロジェクトが終了し、現在は日本語を使う機会が減っている場合もあるようである。しかし、全体的には日本人スタッフとの会議などのコーディネートやJICA専門家やボランティアとの打ち合わせやFAXや電話でのやり取り、日本人訪問団来庁の際の応接など特にコミュニケーションの場面で多く必要とされていることがわかった。また、プロジェクト関係の日本語で書かれた報告書や日本語の専門書を読む場合があることも比較的多かった。

(ウ) 現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

特に多かったのが専門分野の日本語の習得と漢字学習の困難さであった。次に多かったのが、日本人専門家との日常のコミュニケーション場面における語彙の不足であった。また、発音やアクセントなど総じてタイの学習者が抱える問題もあげられていた。

(エ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

8名中4名が、現在Eメールを使用し日本語の帰国研修員と交流している。本コースのホームページや帰国研修員のネットワーク作りに関して必要とされる項目のうち、最も多

かったのは本コースの情報であった。これは8名中8名がとても必要と答えている。次にニーズが高かったのが日本語教材の情報、日本語の文法についての質問、日本語の単語についての質問、日本の文化や習慣についての質問であった。また、漢字についての質問や敬語、電話、挨拶などのいろいろな表現についての質問も多かった。

研修員にとって一人で継続して学習することは時間的にも物理的にも余裕がないと思われる。それゆえ、直接または頻繁に先生に文法などの質問をしたり、仕事上すぐに必要な挨拶（敬語の使い方）や事務文書の表現に関する質問ができる本コースホームページの開設への期待が大きいことがうかがえる。

4-2-4. 帰国研修員の面談内容

① Ms. Amornrat Tarnrevadee (アモラット)

商務省輸出部 昭和60年度

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後自宅で半年間学習を続けた。

(イ) 帰国後の日本語使用状況

2～3年前に職場（輸出部）において日本語コース開設のアレンジを担当した。現在、JICAの長期及び短期専門家2名がタイのビジネスマン13名を対象に週に3回、1日3時間、日本語の授業を行っている。その専門家とのミーティングやFAXや電話のやり取り、コーディネートに日本語を使っているということであった。

(ウ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

研修を修了してから、14年が経過し日本語の研修員との交流もほとんどないので、ネットワークができれば日本語関係の情報が得られるとともに、研修員間の交流を通して日本語継続学習の意識も高められると思われるので是非活用したいということであった。

② Mr. Thamnoon Nantasomboon (タマヌーン)

内務省公共事業部 平成7年度

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後3年間、週7～15時間、独学で勉強を続けた。文法書や単語集などの教材の他

に日本のテレビ番組なども有効に活用し興味深く日本語と日本文化を学んだ。1996年に日本語能力試験4級^(注)を受験、合格した。

(注) 日本語能力試験4級：簡単な会話ができ、平易な文の読み書きができる。初級前半修了程度。

(イ) 帰国後の日本語の使用状況について

プロジェクトが続行している間はJICA専門家とのやり取りなどが頻繁にあったが、現在はプロジェクトも終了し特に日本語が必要な状況にはないということであった。

(ウ) 現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

現在、教科書以外に日本語に触れる機会は少ないが、今後のために日本語の学習は是非続けていきたい。

(エ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

現在、職場のコンピュータ設備は十分ではないが、将来増設される可能性がある。その際、本コースのホームページにアクセスできれば、本コースの情報や他の帰国研修員の情報などについて積極的に活用したいと考えている。

③ Ms. Pitinun Samanvorawong (ピティナン)

商務省輸出部 平成7年度

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後1年間、週1～2時間自宅で学習。漢字の教科書も2冊購入したが時間がなくて全部は終えられなかった。

(イ) 帰国後の日本語の使用状況について

現在はプロジェクトもなく特に日本語を使用する場面は少ない。しかし、今年度大阪にある商務省タイ貿易センターで4年間の勤務が決まっているということである。バイヤーと輸出業者の仲立ちをする業務なので、契約を円滑に進めるために日本語の使用場面はかなり増えていくだろうということであった。

(ウ) 現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

現在の日本語力は仕事上での使用には不足している。今後大阪での勤務に向けて、もっと専門の日本語と敬語を学びたいということであった。

(エ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して
職場のコンピュータに日本語システムがありたまに活用している。また、日本語の帰国
研修員2名ともEメールを通して交流している。今後、本コースのホームページが開設さ
れば、大阪での仕事の強いサポーターになることは間違いないので、早急な開設を望ん
でいるということであった。

④ Ms. Panpilai Ayawan (パンピライ)

農業協同組合省畜産振興局 平成9年度

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後1年間自宅を中心に週1時間程度学習した。

(イ) 帰国後の日本語使用状況

直接関わっているプロジェクトではないが、現在も所属の部署においてJICA長期専
門家が4名、短期専門家が4名活動中で、その人たちとのコミュニケーションに日本語を
使用しているという。また、日本からの訪問団も年に2～3回訪れるのでその場合のコー
ディネートや応接などにも日本語を使う機会が多いということであった。また、日本語で
書かれた報告書なども読むことがあるという。

(ウ) 現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

プロジェクト関係の報告書を読む場合の漢字力の不足や専門用語の不足。

(エ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

漢字や農業分野や獣医学などの専門用語の習得など仕事に関連する日本語の継続学習全
般に活用できると期待している。

⑤ Ms. Arunee Lertrasamewong (アルニー)

総理府経済技術協力委員会 (DTEC) 平成9年度

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後すぐ6ヶ月間国際交流基金バンコク日本語センターにて1日3時間日本語を学習
した。

(イ) 帰国後の日本語使用状況

帰国後昇進し、JICA専門家の秘書として研修員派遣のための日本語の選考試験作成（3級）を2年間行うなどカウンターパートとして日常的なコミュニケーションはもとより、専門的な知識と技量が伴う仕事に携わっているとのことである。一方で日本人訪問団などの応接などでも積極的に日本語を使用しているということである。

（ウ）現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

試験問題を作成する上で、多くの教材や資料を見比べ検討していかなければならないのでやはり確実な文法知識と漢字の習得が必要である。

（エ）日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

間もなくオーストラリアの大学で学位（修士）取得のために留学する予定であるが、日本への研修員派遣の窓口である職場においては、今後も日本語のできる人材は必要であると思われる。日本語コースのホームページが開設されれば、オーストラリアにいながらも必要な情報を適宜得られるだけでなく、それを後任の担当者に伝えることができるので非常に期待している。積極的に活用していきたいとのことであった。

⑥ Mr. Yothin Sommano（ヨーヨ）

教育省職業教育局 平成9年度

（ア）帰国後の日本語の学習状況

特に時間を設けて学習しているわけではないが、職場で初級日本語のクラスを担当しているので、教材作成やテスト作成において必要な場合に適宜知識を得ている。帰国後1999年に日本語能力試験3級^(注)を受験したが、合格まであと5点という結果であった。

（注）日本語能力試験3級：日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章の読み書きができる。初級修了程度。

（イ）帰国後の日本語の使用状況について

JICA専門家との打ち合わせや日本人訪問団への応接、会議や式典などの挨拶、また日本からの問い合わせなどの場面においてよく日本語を使っている。また教育省管轄の職業訓練校チェトポン・コマーシャル・カレッジビジネスホテル科において学生23名を対象に毎週火曜日3時間、初級日本語を教えている。その際、教材作成にあたり、日本語対応のプリンターがないので協力隊の持っているものを使わせてもらったりしているので、その人とのコミュニケーションにも日本語を日常的に使っている。

(ウ) 現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

長い文になると相手の話す内容が正確にわからないことがあるので、中級レベルの文法の習得と語彙の習得及び長音や促音の発音ももつときちんと習得したいと考えているようだ。また、日本語を教えている上で、学習者のニーズにあった教材が必要であるということであった。

(エ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して

現在Eメールで日本語の帰国研修員3名と連絡を取り合っている。平成13年5月より学位(修士)取得のため2年間ドイツに留学する予定であるが、本コースでホームページができあがったらさらに研修員間の関係も深まるであろうと思われる。帰国後はまた、日本語教育にも携わりたいと考えているので、特に日本語教材の情報など今後も日本語学習に関する情報は必要であるということであった。

⑦ Mr. Samithi Jumratsri (スミッティ)

工業省産業基準検査所 平成11年度

(ア) 帰国後の日本語学習状況

帰国後6ヶ月間国際交流基金バンコク日本語センターにて毎週2回(火曜日・木曜日)各1時間学習。特に発音・アクセントの勉強に力を入れているという。また、シリパーコーン大学では平成12年11月から平成13年6月まで、毎週末(土曜日と日曜日)午前9時から午後4時まで日本語ガイドの勉強も始めている。タイの美術、歴史、文化を学ぶ一方、両日とも3時間は日本語ガイド資格取得のための日本語を学んでいるということである。また、平成12年12月に日本語能力試験3級を受験し、現在結果を待っているところである。

(イ) 帰国後の日本語使用状況

帰国後間もないことと、新しい任務に就いたこともあり、今のところ日本語を使う機会は少ない。また、職場(工業省)に日本の大学を卒業した人が1名いるので日本人の案内などはほとんどその人が行っている。しかし、現在JICA専門家が1名いるので、今後はその人とのコミュニケーションを積極的に図っていききたいとのことである。

(ウ) 現在の問題点と今後習得したい学習内容に関して

発音とアクセントの矯正が大きな課題である。

(エ) 日本語コースのホームページの必要性及び帰国研修員のネットワーク作りに関して
現在日本語の帰国研修員4名とEメールで交流がある。ネットワークができれば互いに
日本語や日本についての情報交換ももっと活発にできるであろうし、難しい敬語表現や日
本の文化や習慣などについてもさらに知識が得られると思う。

5. 総括

今回の調査団の結論は、日本語、特に「技術協力のための日本語」の重要性が再認識されたことである。

途上国に於ける技術協力の現場で活躍する専門家、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア及び各種訪問団員等とともに国造りに参加する現地カウンターパートの質の向上は、協力の成否を決する重要なポイントである。特に異文化間に於けるコミュニケーションをどう効果的に、また、効率的に行っていくかというのは技術協力の現場では大変重要であることがわかった。そのためにも担当する現地の人々が日本語を習得する意義は大きいのである。

さらに、平成12年度から始まった留学生無償支援事業や長期留学生制度、およびラオス日本人材協力センターの開設など、日本語関連の技術協力の枠組みが構築されてきている昨今、日本語学習へのニーズは益々高くなるものと予想される。また、世界的な情報化時代を反映して、ITを活用したホームページも研修員にとっては有効に利用できる時期に来ていると言える

今後の取り組みについて

① ラオス日本人材協力センター（日本センター）との連携

ラオスにおいては、日本センターが社会開発協力部のプロジェクトとして開始しており、そこで実施される日本語講座と沖縄国際センターで実施される本コースを連携させることが有効であると思われる。

ラオス日本人材協力センターで日本語を学んだ優秀な人材に優先的に本コースに参加する権利が与えられれば、学習者にとって大きな動機付けとなることが考えられる。さらに、本コース参加後は、他の研修コースへの参加及び留学生無償支援事業及び長期研修制度の活用等に広がりを持つ可能性も大いに出てくると思われる。

それにより単なる日本語の習得から、技術を持った国造りに役立つ人材の育成の流れが出来上がり、さらなる「共生」・「協調」の関係を築けるものと確信する。

② 日本語コースホームページの立ち上げ

タイにおいては、研修員の所属先の多様性から「技術協力のための日本語」という視点は重要性を増していると同時にどうやって帰国後に日本語の力を維持・向上させていくかが課題である。

その課題に対しては、沖縄国際センターの日本語コースのホームページ立ち上げが最も効果的であると思われる。ホームページ上で本コースの情報の提供、具体的な教材の紹介、日本語使用場面での色々な問題の解決の手助けなどが帰国研修員から強い要望としてあげられていた。

③ 技術協力のための日本語コース用語集の編纂

また、JICAの集団コースの中では本コースが「技術協力のための」と冠している唯一の日本語コースでもあるため更なる独自性を発揮する必要がある。具体的には、技術協力のための日本語コース用語集（仮題）などの作成が望まれる。本コースは技術協力に従事する研修員が対象であることから、JICAが実施している各種スキームに関する基本的用語については、講義の中で教えていく必要がある。段階的に簡単な技術協力に関する用語集を最初に作成し、その後は、沖縄国際センターの研修業務を職員が分野別（農林水産環境、情報技術/IT、基本的人間に必要な分野/BHN）で担当しているが、これに適応する形で最低限必要であると思われる各分野に必要な単語について、日本語、英語の検索が出来るように整理する必要がある。沖縄国際センターには、日本語の集団コースの他に、集中講習といわれる日本語講習がある。それは各コースの研修初期に4週間から9週間集中的に日本語を学ぶコースである。また、その他の研修コースの参加者で日本語学習を特に希望する研修員には夜間に一般講習を設定しているが、それらの研修員にも裨益する用語集を目指すことが実践的なものになり活用される可能性は高くなる。

付属資料

1. 帰国研修員名簿
2. 質問票（日本語・英語・ラオス語）
3. 質問票集計結果
4. アンケート分析結果
5. 現地報告書
6. 収集資料一覧

ラオス帰国研修員名簿

NO.	Name	Course	Duration	Post	Present Occupation		備考
					Name of Organization	Address/(Tel)	
1	Mr. Khamstone THONGMIXAY (カムソン)	Intensive Japanese Language (B)	94. 10. 28 95. 5. 13	Acting Head of Department	Ministry of Education, Dept. of Literature and Lao Language	Xaythany District, Ban Dong Dok, Vientiane, Laos	面談
2	Mr. Amphay KINDAVONG (アンパイ)	Intensive Japanese Language (A)	95. 10. 26 96. 5. 11	Second secretary and Charge D'Affaires a. i	Embassy of the Lao People's Democratic Republic in Seoul	657-9 Hannam-dong Yonsan-ku, Seoul (796-1713)	(在韩国)
3	Mr. Somchai PRAPHASIRI (ソムチャイ)	Intensive Japanese Language (A)	95. 10. 26 96. 5. 11	Desk Officer	Ministry of Foreign Affairs, Dept. of Asia and Pacific and Africa	Yhatlouang Road, Vientiane, Laos (414017)	面談
4	Mr. Khamvay SYPHANDONE (カムサヴァイ)	Japanese Language for Technical Cooperation	96. 9. 26 97. 3. 29	Researcher	Ministry of Health, Parmanent Secretary Office	Thadea, Vientiane, Laos (222630)	面談
5	Mr. Amphayvanh CHANTHAVONG (アンパイワン)	Japanese Language for Technical Cooperation	97. 10. 2 98. 3. 28	Receptionist	Ministry of Foreign Affairs, Consular Dept.	Vientiane, Laos (856-21-414035)	(在オース トラリア)
6	Mr. Thepnothin PHILAVONG (テップ)	Japanese Language for Technical Cooperation (Intermediat&Adv)	97. 10. 2 98. 3. 29	Third Secretary	Embassy of the Lao People's Democratic Republic in Tokyo	Nishi-azabu minato-ku, Tokyo (5411-2291)	(在東京)
7	Mr. Sysomphorn PHETDAOHEUANG (ポーン)	Japanese Language for Technical Cooperation	98. 9. 24 99. 3. 28	Project Coordinator	Committee for Investment and Cooperation, Dept. of International Economic Cooperation	Luang Phanang, Vientiane, Laos (216652)	(在東京)

タイ帰国研修員名簿

NO.	Name	Course	Duration	Post	Present Occupation		備考
					Name of Organization	Address/(Tel)	
1	Ms. Amornrat TARNREVADEE (アモラット)	Intensive Japanese Language(B)	85. 10. 25 86. 4. 29	Trade Official	Trade Training Center, Dept. of Commercial Relations	22/77 Rachadapisek Rd., Bangkok 10900, Thailand	面談
2	Mr. Thamnoon NANTASOMBOON (タマヌーン)	Intensive Japanese Language(A)	95. 10. 26 96. 5. 11	Civil Engineer	Ministry of Interior, Sanitary Engineering Div., Public Works Dept.	218/1 rama VI Rd., Phayathai, Bangkok, 10400 (299-4656)	面談
3	Ms. Pitinun SAMANVORAWONG (ピティナン)	Intensive Japanese Language(B)	95. 10. 26 96. 5. 12	Senior Trade Officer	Office of International Trade Fair Activities, Dept. of Export Promotion	22/77 Rachadapisek Rd., Lad Yao, Chatuchak Bangkok, 10900 (511-6020)	面談
4	Ms. Arunee LERTRASAMEWONG (アルニー)	Japanese Language for Technical Cooperation	97. 10. 2 98. 3. 29	Program Officer	Ministry of Prime Minister, Dept. of Technical and Economic Cooperation	962 Kung Kasem Rd., Bangkok, Pomprab (282-9830)	面談
5	Ms. Pampilai AYAWAN (パンピライ)	Japanese Language for Technical Cooperation	97. 10. 2 98. 3. 29	International Coordinator	Ministry of Agriculture and Cooperatives Dept. of Livestock Development	Phayathai Rd., Bangkok, 10400 (653-4912)	面談
6	Mr. Yothin SOMMANO (ヨ一ヨ)	Japanese Language for Technical Cooperation (Intermediate&Adv)	97. 10. 2 98. 3. 29	Officer	Ministry of Education, Planning Div., Dept. of Vocatio- nal Education	Ratchadamnoen Nok Rd. Dusit, Bangkok 10300 (281-5555)	面談
7	Ms. Pol. Lt. Saranya THABPENTHAI (サランヤー)	Japanese Language for Technical Cooperation (Intermediate&Adv)	98. 9. 24 99. 3. 27	Sub Inspector, Police	Royal Thai Police, Foreign Affairs Div.	Rama I Rd., Patumwan Bangkok 10330 (254-5659)	
8	Mr. Samithi JUMRATSRI (スミッテイ)	Japanese Language for Technical Cooperation (Intermediate&Adv)	99. 9. 23 00. 4. 2	Standard Officer	Thai Industrial Standards Testing Center	Rama 6 Rd., Bangkok (202-3491)	面談

平成12年度
特別案件等調査団
沖縄国際センター「技術協力のための日本語」コース
帰国研修員へのアンケート

名前 _____

国名 _____

研修期間 _____ ~ _____
(年) (月) (年) (月)

(1) 継続学習について教えてください。(当てはまるところに○をつけてください。)

1. 帰国後、日本語を継続して勉強していますか。 はい いいえ
2. 1で「はい」と答えた人にききます。
- ・どうやって勉強していますか。 語学学校で 大学で チューターと 自分で その他
 - ・何時間ぐらい勉強していますか。 _____ 時間(日/週)
 - ・どのぐらいの期間勉強していますか。 19__年__月__日 ~ _____年__月__日 計__ヶ月
 - ・どんな教科書を使っていますか。 (_____)
3. 日本語能力試験を受けましたか。 はい いいえ
- ・3で「はい」と答えた人にききます。
 - _____年度 日本能力語試験 _____級 合格 不合格
 - _____年度 日本能力語試験 _____級 合格 不合格

(2) 現在仕事のどんな場面で日本語が必要ですか。(当てはまるところに○をつけてください。)

使用場面	とても必要	ときどき必要	たまに必要	必要ではない	将来必要
日本人スタッフとの会議や式典など					
司会					
あいさつの通訳					
議事内容の通訳					
コーディネイト					
その他					
日本人専門家と					
打ち合わせ					
FAXのやりとり					
電話のやりとり					
お世話					
その他					

使用場面	とても必要	ときどき必要	たまに必要	必要ではない	将来必要
翻訳					
文書 (FAX、Eメール) (日本語→自国語)					
" (自国語→日本語)					
会議や式典などのあいさつ (日本語→自国語)					
" (自国語→日本語)					
会議や式典などの議事内容 (日本語→自国語)					
" (自国語→日本語)					
依頼状 (日本語→自国語)					
" (自国語→日本語)					
礼状 (日本語→自国語)					
" (自国語→日本語)					
招待状 (日本語→自国語)					
" (自国語→日本語)					
その他					
読む					
日本語の文献					
日本語の新聞					
日本語の専門書					
日本語の説明書					
Eメールや手紙					
その他					
接待					
日本人訪問団					
日本人調査団					
VIP 訪問					
その他					
受付業務					
日本人からの問い合わせ					
その他					

(3) これまで日本語を使う場面で困ったことがありましたら書いて下さい。

(4) 職場のインターネット整備状況について教えてください。

1. 職場でインターネットを使用していますか。

- a. 現在使用している b. これから使用する計画がある
 c. 使用する計画は無い d. わからない

2. どのようなコネクションを使用していますか。コンピューターの台数を空欄に書いて下さい。

タイプ Type	Bandwidth	コンピューターの台数
Dial-up	14.4K	
	28.8K	
	33.6K	
	56K Modem	
ISDN	56K Single ISDN	
	112K Dual ISDN	
Leased line (dedicated direct)	128K	
	256K	
	500K	
	1M	
	T1	

3. どのインターネットサービスを使用していますか。(○をつけて下さい)

- a. E-mail b. WWW
 c. FTP d. Usenet
 e. Talnet f. Others (specify;)

4. 職場ではどのインターネットサービスがありますか。(○をつけて下さい)

- a. Mail server b. WWW server
 c. FTP server d. DNS server
 e. Others (specify;)

QUESTIONNAIRE

SPECIAL SURVEY TEAM ON GROUP TRAINING COURSE FOR JAPANESE LANGUAGE FOR TECHNICAL CO-OPERATION

Name _____

Country _____

Period of Training _____, _____ ~ _____, _____
(year) (months) (year) (months)

(1) Please tell us about continuous study. (Please circle appropriate items)

1. After returning your country, do you still keep studying Japanese? Yes No

2. If you answer Yes for 1, please answer the following questions.

• How do you study? at language school at college with tutor
 by yourself Others

• How many hours do you study? _____ hours (day/week)

• How long have you been studying? year 19 _____ month _____ ~ year _____ month _____
total _____ months

• What kind of textbook do you study? (_____)

3. Have you taken Japanese Language Proficiency test (JLPT)? Yes No

• If you answer Yes for 3, please answer the following questions.

Year _____ JLPT Level _____ Passed Not Passed

Year _____ JLPT Level _____ Passed Not Passed

(2) Where do you need to use Japanese for your current job? (Circle all appropriate items)

Where to use	Very necessary	Sometimes necessary	Rarely necessary	Not necessary	Necessary in the future
Meeting or Ceremony with Japanese staffs					
Master of Ceremony					
Interpretation of Speech					
Interpretation of Agenda					
coordinate					
Others					
With Japanese experts					
Meeting					
Exchange facsimiles					
Exchange phone calls					
Care					
Others					

Where to use	Very necessary	Sometimes necessary	Rarely necessary	Not necessary	Necessary in the future
Translation					
Documents (FAX, E-mail) (Japanese→Your language)					
〃 (Your language→Japanese)					
Greeting in the meeting & ceremony (Japanese→Your language)					
〃 (Your language→Japanese)					
Agenda for meeting & ceremony (Japanese→Your language)					
(Your language→Japanese)					
Letter of Request (Japanese→Your language)					
〃 (Your language→Japanese)					
Letter of Thanks (Japanese→Your language)					
〃 (Your language→Japanese)					
Letter of Invitation (Japanese→Your language)					
〃 (Your language→Japanese)					
Others					
Reading					
Books in Japanese					
Japanese newspaper					
Books on Japanese					
Manual in Japanese					
E-mail & Letter					
Others					
Entertainment					
Japanese group of visit					
Japanese group of survey					
VIP visitors					
Others					
Receptionist					
Inquiry from Japanese					
Others					

(3) Please tell us if you have ever had any troubles when you used Japanese.

--

(4) Please describe about the Internet environment in your organization.

1. Is your organization using the Internet?
 - a. Currently using
 - b. Plan to use
 - c. No plans
 - d. Not known

2. What type of connection is it? Please write the number of computers for each connection type, and circle the bandwidth.

Type	Bandwidth	Number of Computers
Dial-up	14.4K	
	28.8K	
	33.6K	
	56K Modem	
ISDN	56K Single ISDN	
	112K Dual ISDN	
Leased line (dedicated direct)	128K	
	256K	
	500K	
	1M	
	T1	

3. Which Internet services are you using? (Circle all appropriate items)

- a. E-mail
- b. WWW
- c. FTP
- d. Usenet
- e. Talnet
- f. Others (specify;)

4. Does your organization have Internet servers?

- a. Mail server
- b. WWW server
- c. FTP server
- d. DNS server
- e. Others (specify;)

QUESTIONNAIRE

SPECIAL SURVEY TEAM ON GROUP TRAINING COURSE FOR JAPANESE LANGUAGE FOR TECHNICAL CO-OPERATION

氏名 _____
 Name _____
 国名 _____
 Country _____

研修期間
 Period of Training _____ ~ _____
 (year) (months) (year) (months)
 年 月 年 月
 年 月 年 月

(1) Please tell us about continuous study. (Please circle appropriate items)
 研修期間終了後も継続して日本語を勉強するかどうかについて教えてください。(適切な項目を丸で囲んでください。)

研修期間終了後、引き続き日本語を勉強し続けますか？ はい いいえ

1. After returning your country, do you still keep studying Japanese? Yes No

もし「はい」とお答えの場合は、次の質問にお答えください。
 2. If you answer Yes for 1, please answer the following questions.

どのように勉強していますか？

• How do you study?

言語学校で勉強 大学で勉強 先生に教えてもらう
 自分で勉強 その他

1日に何時間勉強していますか？ _____ 時間 (日/週)

• How many hours do you study? _____ hours (day/week)

研修期間が何年何月まで続きましたか？

• How long have you been studying? _____ year _____ month ~ _____ year _____ month

total _____ months
 合計 _____ 月

どのようなテキストを勉強していますか？ ()

• What kind of textbook do you study? ()

日本語能力試験(JLPT)を受けていますか？ はい いいえ

3. Have you taken Japanese Language Proficiency test (JLPT)? Yes No

もし「はい」とお答えの場合は、次の質問にお答えください。
 • If you answer Yes for 3, please answer the following questions.

年 _____ JLPT Level _____ 合格 不合格
 年 _____ JLPT Level _____ 合格 不合格
 年 _____ JLPT Level _____ 合格 不合格

ຂໍ້ຄວາມຈຳເປັນໃຊ້ພາສາຍີ່ປຸ່ນ ໃນວຽກງານ ທີ່ຈຸບັນ ຂອງເຈົ້າ?

(2) Where do you need to use Japanese for your current job? (Circle all appropriate items)

Where to use ບ່ອນທີ່ໃຊ້	Very necessary ຈຳເປັນທີ່ສຸດ	Sometimes necessary ຈຳເປັນບາງຄັ້ງ	Rarely necessary ຈຳເປັນເພື່ອ	Not necessary ບໍ່ຈຳເປັນ	Necessary in the future ຈຳເປັນໃນອະນາຄົດ
Meeting or Ceremony with Japanese staffs ກອງປະຊຸມ ຫຼື ຝັ່ງທີ່ ທ້າງ ສ່ວນກັບ ສະໜັບສະໜູນ ທີ່ຍີ່ປຸ່ນ					
Master of Ceremony ຜູ້ ທຳການ ທີ່ສຳຄັນ					
Interpretation of Speech ແປບົດ ປາໄສ					
Interpretation of Agenda ແປຢ່າງ ຈາກ ກອງປະຊຸມ					
coordinate ປະສານ ງານ					
Others ອື່ນໆ					
With Japanese experts ສ່ວນກັບ ຊ່ຽວ ງານ ຍີ່ປຸ່ນ					
Meeting ກອງ ປະຊຸມ					
Exchange facsimiles ຕອບສະໜັບ ແຟັກ					
Exchange phone calls ຕອບສະໜັບ ທາງ ທະລຸນາ					
Care ອຳນວຍ ຄວາມ ສະດວກ					
Others ອື່ນໆ					
Translation ແປພາສາ					
Documents ເອກະ ສາມ ພາສາ ຍີ່ປຸ່ນ ພາສາ ລາວ (FAX, Email) (Japanese→Your language)					
“ (Your language→Japanese) ພາສາ ລາວ ພາສາ ຍີ່ປຸ່ນ					
Greeting in the meeting & ceremony ກ່າວ ບົດ ກອງ ປະຊຸມ ແລະ ຝັ່ງ ທີ່ ທຳການ ທ້າງ ພາສາ ຍີ່ປຸ່ນ ພາສາ ລາວ (Japanese→Your language)					
“ (Your language→Japanese) ພາສາ ລາວ ພາສາ ຍີ່ປຸ່ນ					
Agenda for meeting & ceremony ວາລະ ກອງ ປະຊຸມ ແລະ ຝັ່ງ ທີ່ ທຳການ ທ້າງ ພາສາ ຍີ່ປຸ່ນ ພາສາ ລາວ (Japanese→Your language)					
“ (Your language→Japanese) ພາສາ ລາວ ພາສາ ຍີ່ປຸ່ນ					

Letter of Request (Japanese→Your language) ໃບຄຳຮ້ງ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ ພາສາລາວ					
" (Your language→Japanese) ພາສາລາວ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
Letter of Thanks (Japanese→Your language) ຈົດໝາຍຂອບໃຈ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ ພາສາລາວ					
" (Your language→Japanese) ພາສາລາວ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
Letter of Invitation (Japanese→Your language) ຈົດໝາຍພາກຊຸມ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ ພາສາລາວ					
" (Your language→Japanese) ພາສາລາວ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
Others ອື່ນໆ					
Reading ການອ່ານ					
Books in Japanese ປຶ້ມພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
Japanese newspaper ເມັດສື່ພິມພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
Books on Japanese ປຶ້ມວິຊາການເປັນພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
Manual in Japanese ປຶ້ມຄຸ້ມເປັນພາສາຍີ່ປຸ່ນ					
E-mail & Letter ອີ-ແມວ ແລະ ຈົດໝາຍ					
Others ອື່ນໆ					
Entertainment ການມ່ວນໆ (ແຂກ)					
Japanese group of visit ບັນດາແຂກຍີ່ປຸ່ນ ທີ່ມາຢ້ຽມຢາມ					
Japanese group of survey ບັນດາແຂກຍີ່ປຸ່ນ ທີ່ມາເກັບກຳຂໍ້ມູນ					
VIP visitors ບັນດາແຂກ ຂັ້ນສູງ ຂອງຍີ່ປຸ່ນ ທີ່ມາຢ້ຽມຢາມ					
Others ອື່ນໆ					
Receptionist ປະຊາສຳພັນ (ຄັ້ງມື້)					
Inquiry from Japanese ຕາມການຮ້ງຂໍຂອບຄຳຍີ່ປຸ່ນ					
Others ອື່ນໆ					

ກະລຸນາບອກພວກເຮົາ ຖ້າເວລາເຈົ້າໃຊ້ພາສາຝຣັ່ງ ເລີຍ ມີບັນຫາຫຍັງບໍ່?

(3) Please tell us if you have ever had any troubles when you used Japanese.

ກະລຸນາ ອະທິບາຍ ສະພາບການນຳໃຊ້ ອິນເຕີແນັດ ຢູ່ໃນ ການຈັດຕັ້ງ ຂອງເຈົ້າ.

(4) Please describe about the Internet environment in your organization.

ການຈັດຕັ້ງຂອງເຈົ້າ ນຳໃຊ້ ອິນເຕີແນັດບໍ່?

1. Is your organization using the Internet?

- a. Currently using b. Plan to use
ບໍ່ມີແຜນການ ບໍ່ຮູ້
 c. No plans d. Not known

2. ການຕັດສິນສາມ ປະເພດໃດ? ກະລຸນາ ຂຽນຈຳນວນ ເຄື່ອງຄອມພິວເຕີ ແຕ່ລະຊະນິດ ແລະ ຂະໜາດ ຂະໜາດ ຄອມພິວເຕີ ແລະ ຂະໜາດ ຂະໜາດ ຄອມພິວເຕີ ແລະ ຂະໜາດ ຂະໜາດ ຄອມພິວເຕີ
 What type of connection is it? Please write the number of computers for each connection type, and circle the bandwidth.

Type ປະເພດ	Bandwidth ຂະໜາດບັ້ງ	Number of Computers ຈຳນວນເຄື່ອງຄອມພິວເຕີ
Dial-up	14.4K	
	28.8K	
	33.6K	
	56K Modem	
ISDN	56K Single ISDN	
	112K Dual ISDN	
Leased line (dedicated direct)	128K	
	256K	
	500K	
	1M	
	T1	

3. Which Internet services are you using? (Circle all appropriate items)

ອີ່ມເຕີແມວຍະເພດໃຈ ທີ່ເຈົ້າໃຊ້ ອີ່ມເຕີແມວເຊີເວີບ໌ ຊື່ໜ້າໜ້າຕາມຂໍ້ຄວາມສຸ່ມສໍ້.

- a. E-mail
- b. WWW
- c. FTP
- d. Usenet
- e. Talnet
- f. Others (specify;)
ອື່ນໆ ບວກລາຍລະອຽດ

4. Does your organization have Internet servers?

ການຈັດຕັ້ງເຈົ້າໄດ້ມີໃຊ້ ອີ່ມເຕີແມວເຊີເວີບ໌?

- a. Mail server
- b. WWW server
- c. FTP server
- d. DNS server
- e. Others (specify;)
ອື່ນໆ ບວກລາຍລະອຽດ

5. In which language can you input into your computers?.

(Circle all appropriate items) ມີພາສາໃຈໃນສຸ່ມສໍ້ ເຈົ້າໄດ້ມີໃຊ້ໃນເຄື່ອງຄວມພວ້ເຕີເຈົ້າ? ຊື່ໜ້າໜ້າຕາມຂໍ້ຄວາມສຸ່ມສໍ້.

- a. Laos ພາສາລາວ
- b. Thai ພາສາໄທ
- c. English ພາສາອັງກິດ
- d. Japanese ພາສາຍີ່ປຸ່ນ
- e. Others (specify;)
ອື່ນໆ ບວກລາຍລະອຽດ

6. Do you exchange E-mails with other participants for your "Japanese Language in Technical Cooperation"?

ເຈົ້າໄດ້ມີໃຊ້ ອີ່ມ-ແມວ ທີ່ຕໍ່ກັບພົວພັນກັບມັກຜືກວິຊາບຸກຄົນ ອື່ນໆ ທີ່ເຈົ້າມາຈາກພັກ ຈັບຮົມ ພາສາຍີ່ປຸ່ນ ເພື່ອການຮ່ວມ ມື ຕາມເຕັກນິກບໍ່?

- Yes ໄດ້
- No ບໍ່ໄດ້

7. If you answer "Yes" for No.6, please tell us how many persons do you exchange E-mails with?

ຖ້າເຈົ້າຕອບວ່າໄດ້ໃນຂໍ້ 6, ກະລຸນາບອກ ທ່ານມີ ທີ່ເຈົ້າໄດ້ຕໍ່ກັບພົວພັນຄັ້ງ.

() persons
ຄົນ

(5) ภาวการณ์รวมตัวกันของผู้เรียน จากสถาบันต่าง ๆ เพื่อมาเรียนภาษาญี่ปุ่น และความร่วมมือกันตาม (5) As for plans of making reunion of participants from "Japanese Language in Technical

Cooperation, please tell us how much of information below do you need?

(Circle appropriate answer in each item) กรุณาบอกข้อมูลความจำเป็นที่ (Circle appropriate answer in each item) ภาวการณ์รวมตัวกันของผู้เรียน

	Very necessary	Sometimes necessary	Rarely necessary	Not necessary	Necessary in the future
Information about "Japanese Course" ข้อมูลเกี่ยวกับวิชาภาษาญี่ปุ่น					
Information about textbook on Japanese Language ข้อมูลเกี่ยวกับหนังสือภาษาญี่ปุ่น					
Information about other participants ข้อมูลเกี่ยวกับผู้เรียนคนอื่น ๆ					
Question about Japanese grammar คำถามเกี่ยวกับไวยากรณ์ภาษาญี่ปุ่น					
Question about Japanese Kanji คำถามเกี่ยวกับคันจิ					
Question about Japanese words คำถามเกี่ยวกับคำศัพท์ภาษาญี่ปุ่น					
Question about Japanese various expressions of (politeness, telephone, greeting) คำถามเกี่ยวกับสำนวนต่าง ๆ (คำสุภาพ, คำสวัสดี, คำทักทาย ฯลฯ)					
Question about Japanese writing style คำถามเกี่ยวกับแบบอย่างการเขียนภาษาญี่ปุ่น					
Question about Japanese culture and custom คำถามเกี่ยวกับวัฒนธรรมและประเพณี (และวิถีชีวิต)					
Proofreading of Japanese sentences การอ่านประโยคภาษาญี่ปุ่น ที่ถูกต้อง					

使用場面	とても必要	ときどき必要	たまに必要	必要ではない	将来必要
翻訳					
文書 (FAX、Eメール) (日本語→自国語)	1	2	1		2
" (自国語→日本語)	1	1	2		2
会議や式典などのあいさつ (日本語→自国語)		2	2		1
" (自国語→日本語)		2	2		1
会議や式典などの議事内容 (日本語→自国語)	2	2	2		
" (自国語→日本語)	2	3	2		
依頼状 (日本語→自国語)	1	1	3		2
" (自国語→日本語)	1		3		2
礼状 (日本語→自国語)	3	1	2		1
" (自国語→日本語)	2	1	2		1
招待状 (日本語→自国語)	3		3		1
" (自国語→日本語)	2		3		
その他	1				
読む					
日本語の文献	2	1	1		3
日本語の新聞	1	2	2		2
日本語の専門書	1	3	1		2
日本語の説明書	2	2	1		2
Eメールや手紙	2	1	2		2
その他	1				
接待					
日本人訪問団	4	2			
日本人調査団	5	1			
VIP 訪問	4	1	1		
その他	1				
受付業務					
日本人からの問い合わせ	3	3			1
その他	1				

(3) これまで日本語を使う場面で困ったことがありましたら書いて下さい。

・アンケート (1)	・読み (2)	・電話で話すとき (1)
・文法 (3)	・書き (2)	・敬語 (1)
・助詞の使い方 (1)	・語彙の不足 (1)	
・漢字の読み方 (1)	・日本人の話す速度についていけない (1)	

(4) 職場のインターネット整備状況

1. 職場でインターネットを使用1

- a. 現在使用している (1) b. これから使用する計画がある (4)
 c. 使用する計画は無い d. わからない

2. どのようなコネクションを使用していますか。コンピューターの台数を空欄に書いて下さい。

タイプ Type	Bandwidth	コンピューターの台数
Dial-up	14.4K	6
	28.8K	
	33.6K	
	56K Modem	7
ISDN	56K Single ISDN	
	112K Dual ISDN	
Leased line (dedicated direct)	128K	
	256K	
	500K	
	1M	
	T1	

3. どのインターネットサービスを使用しているか。

- a. E-mail (3) b. WWW (2)

4. 職場ではどのインターネットサービスがありますか。(○をつけて下さい)

- a. Mail server (2) b. WWW server (1)

5. 入力言語

- a. ラオス語 (6) b. タイ語 (1)
 c. 英語 (6)

6. 日本語コースの他の研修員とE-mailのやりとりをしているか。

・はい (1) (5~6人と)

・いいえ (6)

(5) 日本語コース研修員のE-mail同窓会、日本語コースホームページでどのような情報が必要ですか。

	とても必要	時々必要	たまに必要	必要ではない	将来必要
日本語コースの情報	4	3			
日本語教材の情報	3	3			1
ほかの研修員の情報	1	5	1		
日本語の文法についての質問	6	1			
日本語の漢字についての質問	3	3	1		
日本語の単語についての質問	5	2			
日本語の色々な表現についての質問 (敬語、電話、挨拶など)	7				
日本語の文書の書式についての質問	2	3	2		
日本の文化や習慣についての質問	4	3			
日本語の文章の添削	5		2		

平成12年度
特別案件等調査団
沖縄国際センター「技術協力のための日本語」コース
タイ帰国研修員へのアンケート集計結果

(1) 継続学習について

1. 帰国後の日本語学習の継続 ・継続 (8) *かっこ内は人数
2. 学習方法および機関 ・語学学校 (2) ・独学 (5) ・その他 (2)
- 時間数 ・1時間/週 (4) ・3時間/週 (1) ・7~15時間/週 (1)
- ・時間の都合がつくとき (2)
- 学習期間 ・1年 (5) ・2年 (1) ・3年 (1)
3. 日本語能力試験を受けましたか。 ・はい (4) 1996年/97年4級合格2名 ・いいえ (4)

(2) 現在仕事のどんな場面で日本語が必要ですか。(当てはまるところに○をつけてください。)

使用場面	とても必要	ときどき必要	たまに必要	必要ではない	将来必要
日本人スタッフとの会議や式典など					
司会		1	2	1	3
あいさつの通訳		2	2	2	1
議事内容の通訳			3	2	2
コーディネイト	2	3	2		1
その他		1			1
日本人専門家と					
打ち合わせ	1	5	1		
FAXのやりとり		4	2		1
電話のやりとり		3	3		1
お世話	1	2	3		1
その他		1			1

使用場面	とても必要	ときどき必要	たまに必要	必要ではない	将来必要
翻訳					
文書 (FAX、Eメール) (日本語→自国語)		3	2		1
" (自国語→日本語)	1	2	2		1
会議や式典などのあいさつ (日本語→自国語)	2	1	3		1
" (自国語→日本語)	2	1	3		1
会議や式典などの議事内容 (日本語→自国語)	1	3	2		1
" (自国語→日本語)	1	3	2		1
依頼状 (日本語→自国語)	1	3	2		1
" (自国語→日本語)	1	3	2		1
礼状 (日本語→自国語)	1	3	2		1
" (自国語→日本語)	1	3	2		1
招待状 (日本語→自国語)	1	3	2		1
" (自国語→日本語)	1	3	2		1
その他		1			1
読む					
日本語の文献	2	2	3		3
日本語の新聞	2	1	1	2	1
日本語の専門書	3	1	2		1
日本語の説明書	3	2	2	1	
Eメールや手紙	2	1	3		1
その他		1			1
接待					
日本人訪問団	3	3	1		
日本人調査団	2	4	1		1
VIP 訪問	3	1	2		1
その他		1			1
受付業務					
日本人からの問い合わせ	3	2	1		1
その他	1	1			1

(3) これまで日本語を使う場面で困ったことがありましたら書いて下さい。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ・アクセント (1) | ・漢字の読み方 (2) |
| ・長文になると日本人の話す内容がわからない (1) | ・漢字の意味 (1) |
| ・語彙の不足 (1) | |
| ・専門用語の不足 (1) | |
| ・教科書で触れる以外日本語を使用することが少ない (1) | |

(4) 職場のインターネット整備状況

1. 職場でインターネットを使用1

- | | |
|-----------------|----------------------|
| a. 現在使用している (6) | b. これから使用する計画がある (2) |
| c. 使用する計画は無い | d. わからない |

2. どのようなコネクションを使用していますか。コンピューターの台数を空欄に書いて下さい。

タイプ Type	Bandwidth	コンピューターの台数
Dial-up	14.4K	
	28.8K	
	33.6K	
	56K Modem	2
ISDN	56K Single ISDN	
	112K Dual ISDN	1
Leased line (dedicated dorect)	128K	
	256K	2 0 0
	500K	3 0 0
	1M	
	T1	

3. どのインターネットサービスを使用しているか。

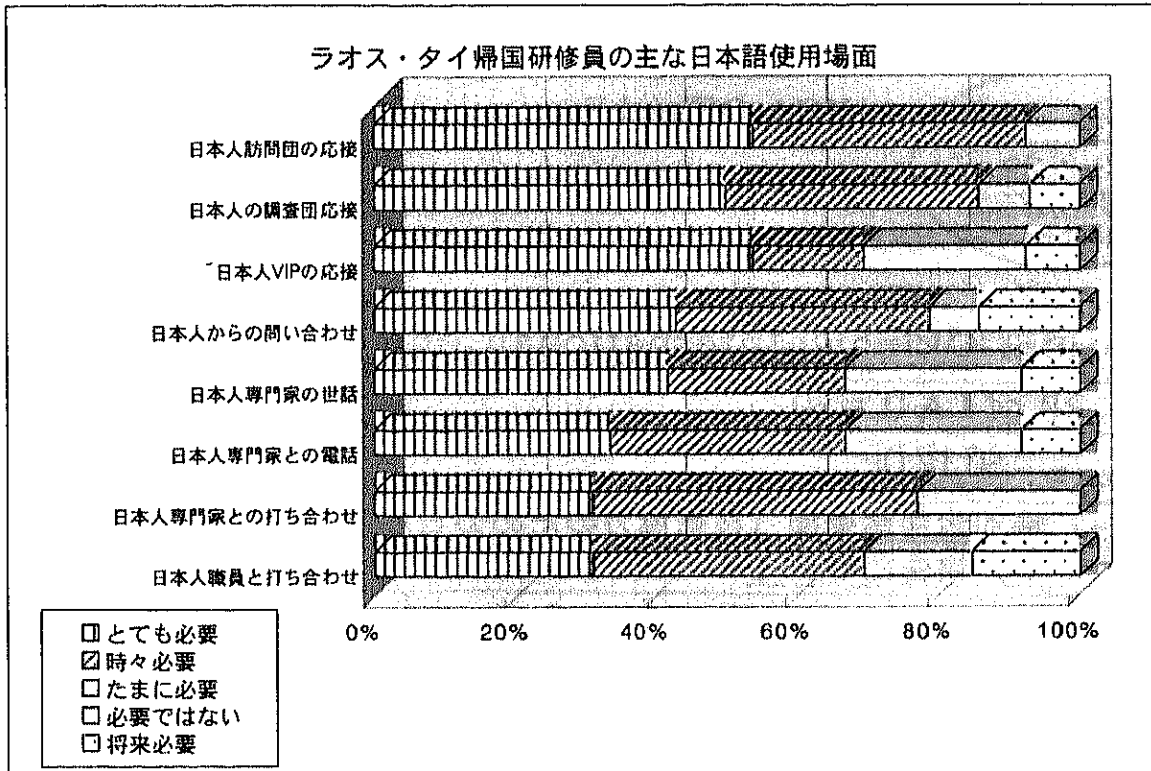
- | | |
|---------------|---------------|
| a. E-mail (6) | b. WWW (6) |
| c. FTP (3) | d. Usanet (1) |
| e. Talnet (1) | f. Others (3) |

4. 職場ではどのインターネットサービスがありますか。(○をつけて下さい)

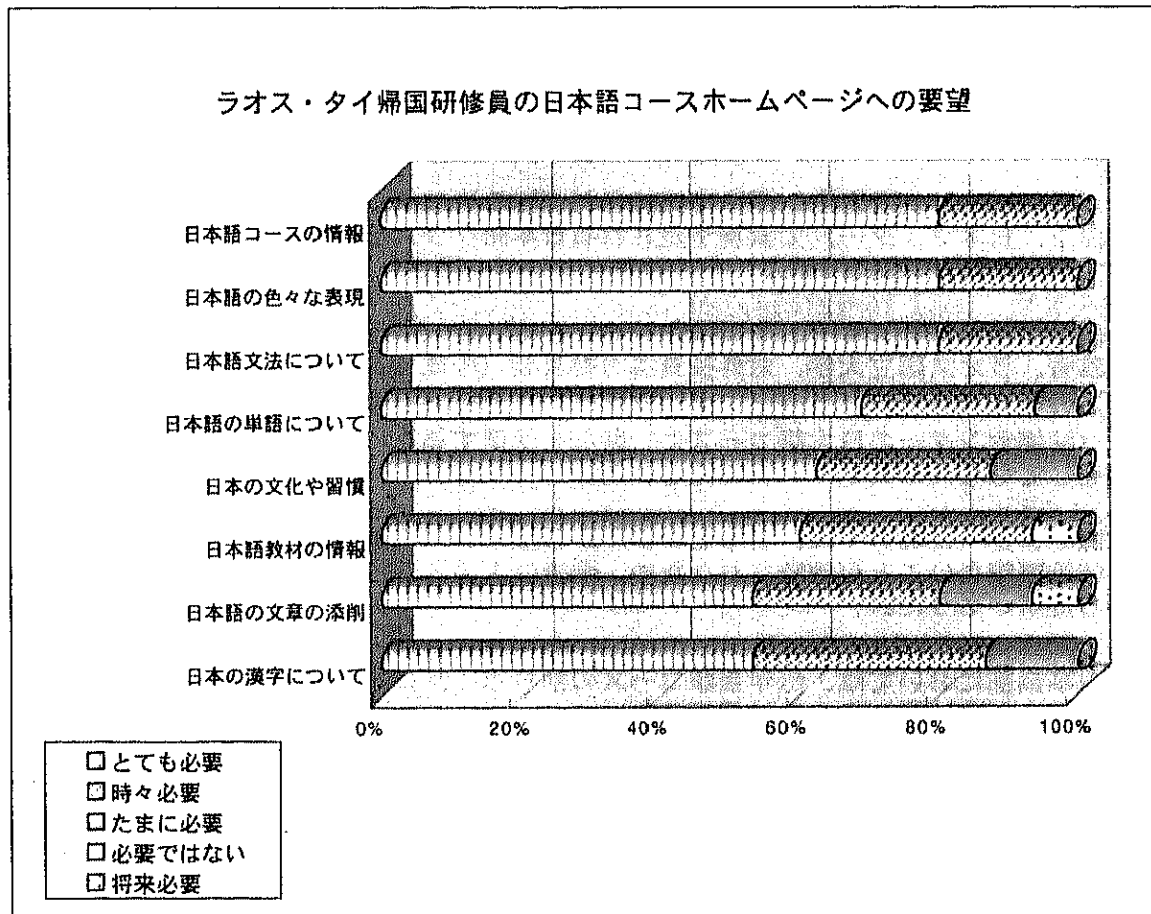
- | | |
|--------------------|-------------------|
| a. Mail server (5) | b. WWW server (1) |
| b. FTP server (2) | c. DNS server (2) |
| d. Others (1) | |

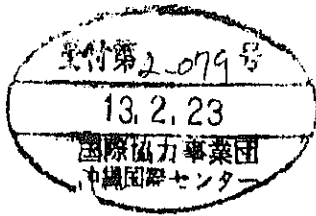
アンケートの分析結果

ラオス・タイ帰国研修員の主な日本語使用場面



ラオス・タイ帰国研修員の日本語コースホームページへの要望





JICA Official Facsimile Message

Ordinary

LAO-158 1/4

Date: 22 Feb. '01

To : MD of OkinawaInternationalCentre (OIC)

From : RR of LA (Laos)

C.C./I sent to : SC,IR,DP

Subject : 特別案件調査団 (技術協力のための日本語コース・フォローアップ) 報告について

Requests for arrangement Please reply For your Information Others

Ref. No. : (YOURS)

(OURS)

Please Transfer to :

標記に関し、当該調査団は、平成13年2月19日から22日までラオスにおけるより効果的な日本語の技術研修につき調査を実施した(詳細別添)。

結論から言えば、沖縄国際センターで実施されている当該コースとラオス日本人材育成センター(以下、日本センター)で実施予定される日本語クラスを有機的に連携・活用することが効果的であることが確認された。

ラオス側も技術協力のスキームを連携させることにつき、利害関係が生じ反対が予想されたラオス外務省、ラオス国立大学、対外投資協力委員会(今までこれらの機関が優先的に選考されていた)の責任者からは、日本センター受講者から選考されることに特段問題は無く、当該機関から(沖縄センターの日本語コースに)参加を希望するものは日本センターの日本語コースに参加をしてもらえば問題ない旨確認された。

沖縄国際センターにおいては、日本センターから推薦される研修員に対しては優先的に採択する事に特段問題ないことが確認されたため、今後は次の関係者の協力が必要となることが調査団側から提案があった。

- 1) 国内事業部においては、毎年当該コースの割り当て国にラオスを優先的に採択して貰うこと(平成13年度は既にラオスは採択済み)。
- 2) ラオス事務所においては、現在ラオス国立大学で実施されている留学生用の日本語教育(シニア海外ボランティアの協力が現在実施されている)と日本センターとの選考過程における割り振りを明確にし、ラオス側での混乱をさけること

以上

別添 : 調査団からのラオス報告書案

R.R.	D.R.R.	D.R.R.	A.R.R.	A.R.R.		

付属資料 5 : 収集資料一覧

1) 機関紹介パンフレット

ラオス

1-1 The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center ラオス日本人材協力センター

1-2 Faculty of Engineering and Architecture, National University of Laos
ラオス国立大学工学部

タイ

1-3 Public Works Department, Ministry of Interior 内務省公共事業部

1-4 Department of Export Promotion, Ministry of Commerce 商務省輸出部

1-5 Post and Telegraph Department, Ministry of Transport and
Communications 運輸・郵政省 郵政部

1-6 国際交流基金バンコク日本語センター

2) 教材

ラオス

2-1 Lao and Japanese conversation 日本語会話 Department of Lao
language and Literature

Faculty of Philology National University of Laos ラオス国立大学
ラオス語・文学部
言語学科

タイ

2-2 2学期最終試験問題 (自主制作) チェトゥポン・コマーシャル・カレッジ
ビジネスホテル科

JICA